

2020.06.11

【米国】新型コロナウイルス感染症流行で負担増す USPS の小包配達網

新型コロナウイルス感染症流行に伴う E コマースの増加が、USPS の配達網に負担をかけており、一部の荷物の到着が大幅に遅れていることが 5 月下旬に明らかになった。

遅配は、USPS を使って商品を発送するオンライン小売販売業者や消費者にとっても、追跡サービスの精度が落ちるなど、不満を募らせる原因となっている。

新型コロナの流行で注文件数は急増したが、USPS で発送した荷物が顧客に届くまでの時間は、2-3 倍に伸びている。USPS のみならず、宅配大手の UPS や FedEx も荷物量がホリデーシーズン並みに増加しており、その対策として UPS は追加料金を導入している。FedEx は、一部の小売販売業者に限り、荷物数を制限している。

USPS 広報によると、郵便物を扱う上で職員及び利用者の安全を最優先に考えているとし、人員の補充などで、必要な対策を図っていると説明した。

民間調査会社によれば、USPS の企業から一般世帯への送達日数達成率は、プライオリティメール・パッケージの場合、通常時の 87.4% から 68.2% に低下。ファーストクラス・パッケージの送達日数達成率も、92.9% から 84.2% に低下した。

一方、UPS の送達日数達成率は 96.5%、FedEx ドは 86.9% だった。